

2010年度

科目名	薬理学A				
担当教員	小山 豊、綿野 智一				
配当	薬科2		コード	11500	
開期	後期	講時	月曜日1限	単位数 2	
授業テーマ	【必修】 神経系、循環器系および呼吸器系に作用する薬物				
目的と概要	2年次前期の「基礎薬理学」では、体内に入った薬物の運命とその作用発現までの機構について、薬物一般に共通する性質を総論しました。薬理系科目では以降、個々の薬物の性質について学習して行きます。2年次後期に開講する「薬理学A」では、「神経系、循環器系、呼吸器系に作用する薬物の作用点、薬理作用、臨床応用などに関する基本的な知識を習得する」ことを、学習の一般目標として授業を進めます。 (日本薬学会モデルコアカリキュラム C13(2)「薬の効き方I」およびA(2)「医療の担い手としてのこころ構え」に一部に対応)				
成績評価法	期末時に行う試験(97点)および平常点(3点)により、計100点満点で評価します。				
テキスト	薬理学—医薬品の作用—/竹内幸一、福井裕行、栗原順一 編/廣川書店				
参考書	スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病I」/日本薬学会 編/東京化学同人 New薬理学/田中千賀子、加藤隆一 編/南江堂				
履修に当たっての注意・助言	授業3回ごとに小テストを行い、各受講生の目標への到達度をフィードバックして行きます。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	イントロダクション 交感神経作用薬	1. 医薬品の使用に関する事故回避における、薬剤師の重要性を認識する。	A(2)	知識・態度
			2. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
2	講義	副交感神経作用薬	1. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
3	講義	神経節・運動神経作用薬	1. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
			2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
4	講義	局所麻酔薬	1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
5	講義	全身麻酔薬	1. 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
6	講義	麻薬性鎮痛薬	1. 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
7	講義	催眠薬	1. 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
8	講義	神経変性疾患治療薬	1. 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
9	講義	精神疾患治療薬	1. 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
10	講義	抗不整脈薬	1. 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
11	講義	心不全および虚血性心疾患治療薬	1. 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
			2. 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
12	講義	高血圧治療薬	1. 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識

13	講義	呼吸器系作用薬	1.代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
			2.代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
14	講義	気管支喘息治療薬	1.代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)	知識
15	講義	まとめ			
授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C13(2) A(2)	講義	講義室	1(0)	配布資料(プリント、電子テキスト)	90分 x 15